

氏名	石川隆紀
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 2450号
学位授与の日付	平成15年3月25日
学位授与の要件	医学研究科社会医学系法医学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Role of Adenohypophyseal Mixed Cell-follicles in Age Estimation (下垂体前葉に出現する混合性濾胞を指標とした年齢推定)
論文審査委員	教授 佐々木 順造 教授 川上 憲人 教授 竹居 孝二

#### 学位論文内容の要旨

著者らは剖検死体から得られた下垂体 248 例につき、免疫組織化学的手法を用いて組織中に存在する混合性濾胞の同定を行い、各年齢層における濾胞の数、大きさ及び濾胞構成細胞の変化を観察した。その結果、加齢に伴い濾胞の数が増加し、大きさが拡大する傾向を認め、年齢と濾胞数との間および年齢と濾胞の大きさとの間に明らかな正の相関が認められた。また、濾胞構成細胞のうち、GH細胞、PRL細胞、GTH(gonadotroph)細胞では加齢に伴い3者の割合に変化が認められたが、ACTH細胞、TSH細胞ではほとんど変化は認められなかった。これらの結果から、下垂体の混合性濾胞の数と大きさは法医実務における身元不明遺体の年齢推定の指標として応用できるものと考えられる。

#### 論文審査結果の要旨

本研究は剖検死体から得られた下垂体 248 例について、免疫組織化学的手法を用いて組織中に存在する混合性濾胞の同定を行い、各年齢層における濾胞の数、大きさ及び濾胞構成細胞の変化を観察したものである。その結果、年齢と濾胞数、及び、年齢と濾胞の大きさ、との間に明らかな正の相関が認められた。また、濾胞構成細胞のうち、GH細胞、PRL細胞、GTH(Gonadotroph)細胞では加齢に伴い3者の割合に変化が認められる一方、ACTH細胞、TSH細胞ではほとんど変化は認められなかった。これらの結果は、下垂体の混合性濾胞の数と大きさが年齢推定の指標となることを示しており、法医実務の際、損傷の著しい身元不明遺体の年齢推定のための重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。